Digidesign® RM1™ and RM2™

プロフェッショナル・リファレンス・モニター

通信と安全規則

遵守
本機種 RM1、RM2 は、干渉および EMC を規定した以下の標準規格を遵守しています。
- FCC Part 15 Class B
- EN55103-1 E1
- EN55103-2 E1
- AS/NZS 3548 Class B
- CISPR 22 Class B

ラジオおよびテレビの干渉
本機器は、FCC 規則第 15 部によるクラス B デジタル機器の制限に適合することがテストによって確認されています。

準拠宣言

私共 Digidesign, 2001 Junipero Serra Boulevard

Daly City, CA 94014-3886, USA

650-731-6300

は以下の製品

RM1 and RM2

が FCC 規則第 15 部に準拠していることを宣言します。

動作は下記の 2 つの条件に従って行われます。(1) 本機器は有害な干渉の原因とはならず、(2) 本機器は不要な動作の原因となる干渉を含む如何なる干渉をも受容します。

通信

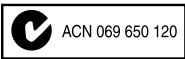
注記：本機器は、FCC 規則第 15 部によるクラス B デジタル機器の制限に適合することがテストによって確認されています。これらの制限は本機器が住宅に設置されたときに有害な干渉に対して妥当な保護を提供するよう定められています。本機器は無線周波数エネルギーを生成し、使用し、放射します。従って取扱説明書に従って正しくインストールおよび使用しなければ無線通信に有害な干渉を与える原因となります。絶対に干渉が起きないことを保証するものではありません。本機器の電源のオンとオフを切り替えることによって本機器がラジオやテレビの受信に対する有害な干渉の原因になっていることが確認できた場合は、以下のいずれかの手段で干渉を緩和してみてください。
- 受信アンテナの方向を変えるか設置場所を変える。
- 本機器と受信機を離して設置する。
- 本機器と受信機の電源を別々のコンセントに接続する。
- ラジオ / テレビの販売店または専門の技術者に相談する。

Digidesign の許可なく本機器を改造すると、本機器を使用する権利が無効になる場合があります。

遵守（カナダ）

このクラス B デジタル機器は、カナダの ICES-003 を遵守しています。

Cet appareil num 屍 ique de la classe B est conforme ・la norme NMB-003 du Canada

遵守（オーストラリア）

CE 遵守：

Digidesign は、EMC Directive 89/336/EEC および Low Voltage Directive 73/23/EEC に適合することにより、本機器に対する CE（Conformite Europenne）マークの適用を許可されています。

安全

本機器は以下の UL 規格の仕様に従って USA とカナダの安全認可に適合するようテストされています。UL60065 7th /IEC 60065 7th およびカナダの CAN/CSA C22.2 60065:03。Digidesign Inc. は適合機器に適切な UL & CUL マークをつけることを認められています。

警告

安全に関する重要な指示

１）これらの指示を読むこと。

２）これらの指示を保存すること。

３）すべての注意に耳を傾けること。

４）これらの指示に従うこと。

５）本機器を水の近くで使用しない。

６）乾いた布でのみ掃除する。

７）通気孔を塞がない。取扱説明書に従って設置する。

８）放熱器、喚起調節弁、ストーブその他熱を発生する機器（アンプを含む）などの熱源近くに設置しない。

９）有極プラグや接地型プラグを正しく使用する。有極プラグには 2 つのブレードがあり、一方の幅がもう一方より広くなっている。接地型プラグには 2 つのブレードと接地プロングがある。このプロング（3 番目の幅広ブレード）は、安全用である。プラグがコンセントに合わないときは、電気技術者に相談してコンセントを交換する。

１０）電源コードが踏まれたり（特にプラグ部分）、機器に挟まれたりしないように保護する。

１１）付属品はメーカーが指定したものだけを使う。

12）雷が発生したときや長時間使用しないときはプラグを抜く。

１３）整備点検は、認定されたサービス要員に依頼する。電源コードまたはプラグが損傷を受けたとき、液体を溢したとき、物体を機器内に落としたとき、機器が雨や水分に晒されたときなど本機器が何らかの損傷を受けたときは整備点検が必要である。

１４）機器に液体をこぼしたり、機器の上に液体に満たされた物体（花瓶など）を置いてはいけない。

警告！ 火事や電気ショックの危険を減らすため、この機器を雨や水分に対して露出してはいけない。

１５）この機器は正しく接地（アース）されたコンセントに接続しなくてはいけない。

１６）主電源スイッチは RM1 と RM2 のバックパネルにある。電源コードは本線から切断するために使うことがあるので、機器の設置後も取り扱い可能でなければならない。

目次

第 1 章

第 1 章：はじめに

Digidesign® のリファレンス・モニター・シリーズ（RMS）をご利用いただきましてありがとうございます。

このモニターは、Digidesign が ATL 技術を使って開発したものです。

このガイドでは、Digidesign の RM1™ スピーカーと RM2™ スピーカーのインストレーションと使用方法を説明します。

Digidesign の RMS スピーカーに使われている技術については、3 ページの「スピーカーについて」をお読みください。

パッケージの内容

- RM1 または RM2 モニター 1 台
- AC 電源ケーブル 1 本
- RJ45 ケーブル 1 本
- Digidesign オンライン登録カード

RM1

機能

RM1 モニターと RM2 モニターには以下の機能があります。

- バイアンプのニア・フィールド・モニター
- デジタル入力とアナログ入力
- 専用ドライバ、デジタル電子工学、パワーアンプ、キャビネット設計による音色の正確さ、明瞭さ、極めて歪みの少ないダイナミックレンジ
- 搭載 DSP：
  - 音像をはっきりさせるためのデジタル・クロスオーバーの処理
  - ゲイン・トリム（感度）、低周波と高周波の調整、L/R チャンネルのアサインメント
  - RMS スピーカーがバスレフ方式のスピーカーの音色を模するリスニング・モード、バス・ポート・エミュレーション
- 軸外位置でのリスニングでも正確な周波数レスポンスを維持する音響分散設計

Digidesign ユーザー登録

同封のオンライン登録カードを読んで、購入した製品をオンラインで登録してください。製品をご登録いただきますと、無償のテクニカルサポートや今後のアップグレードを受けることができます。これは、新規ユーザーとしての大切な手続きです。

保証と修理に関しては、Digidesign の販売店にご相談ください。

www.digidesign.com について

Digidesign の製品を最大限に活用するため、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）をご利用ください。ウェブサイトでは、以下のようなサービスを提供しています。

登録 ご購入いただきました製品をオンラインでご登録ください。登録方法は、同封の登録カードに記載されています。

サポート「テックサポート」と「カスタマーサービス」ではソフトウェアのアップデートやオンライン・マニュアルをダウンロードできます。「互換情報」では、システム対応状況などを確認できます。「アンサーベース」では、よくある質問を検索することができます。「ユーザーカンファレンス」では、ユーザー同士の情報交換ができます。

トレーニング Pro Tools の認定オペレータやエクスパートになりましょう。オンライン・コースで自習したり、Pro Tools の認定トレーニング・センターで実施している授業を調べてみましょう。

製品とディベロッパー「製品」では、Digidesign 製品のデモ版をダウンロードできます。「ディベロッパー」には、プラグイン、アプリケーション、ハードウェアなど開発パートナーの製品情報を掲載しています。

ニュースとイベント「ニュース」には、Digidesign からの最新のお知らせを掲載しています。「イベント」では、Pro Tools デモンストレーションへの参加申込ができます。

その他にもいろいろな情報を掲載しています。ぜひ一度 Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）をご覧ください。

スピーカーについて

Digidesign の RM1 と RM2 は、共に PMC の ATL（Advanced Transmission Line）技術を使って、アンプとクロスオーバーの設計に新機軸を持つ 2 ウェイ（バイアンプ）のリファレンス・モニターです。

PMC による ATL 技術

PMC は ATL（Advanced Transmission Line）を使ってラウドスピーカーの設計を最高レベルまで引き上げました。この設計には、洗練されたキャビネット、専売のドライブ・ユニット、特殊な吸収素材が使われています。

ATL の働き

メイン・ドライバは、キャビネット内の一連の内壁で構成された長いトンネル（伝送路）の最後に取り付けられています。伝送路は、メイン・ドライバの後方から放射される低音域上部を吸収するよう設計された吸音材に沿っています。

最も低い周波数は、トンネルの最後にある大きな出口からメイン・ドライバと同相で現れ、LF 出力を大きくします。伝送路内で生成された圧力は、幅広い周波数帯にわたってメイン・ドライバを操作し、不要な偏位とその結果の歪みを劇的に削減します。

これによって、ミッドレンジが非常に低い周波数内にある歪みにマスクされることなく、よりクリーンで明瞭になります。この技術は、同一のドライバを使った同様の大きさのバスレフ方式や密閉式のキャビネットよりも高い SPL とベースの拡がりを実現します。

ドライバ

RM1 は 5.5 インチの LF ドライバを、RM2 は 6.7 インチの LF ドライバを使っています。これらの LF ドライブ・ユニットは ATL 設計用に最適化されています。

RM1 と RM2 は、共に同一の 1 インチ、ソフト・ドーム、強磁性流体冷却式 HF ドライバを使っています。

アンプ

RM シリーズの HF ドライブ・ユニットと LF ドライブ・ユニットは、低歪み、アナログ制御、「クラス D」の別々のパワーアンプで駆動されます。この種のアンプは、デジタル・アンプの効率や大きさの利点と線形増幅の精度、操作性、音質を併せ持っています。

DSP とクロスオーバー

RM シリーズでは、デジタルの 48 ビット固定小数点プロセッサでクロスオーバー機能を働かせます。強力な DSP エンジンが、EQ パラメータ、バス・ポート・エミュレーション、L/R チャンネル選択に加えて、ドライブ・ユニットの統合と正確な操作が行えるようデジタル領域のオーディオ信号を処理します。

クロック

アナログ入力 ADC（AD コンバーター）は、96 kHz,、24 ビットでサンプルされ、専用の低ノイズ・クロック・オシレータにロックされます。

第 2 章 : RM1 と RM2 の概要

この章では、リファレンス・モニター RM1 と RM2 のコネクタとコントロールについて説明します。

コネクタとコントロール

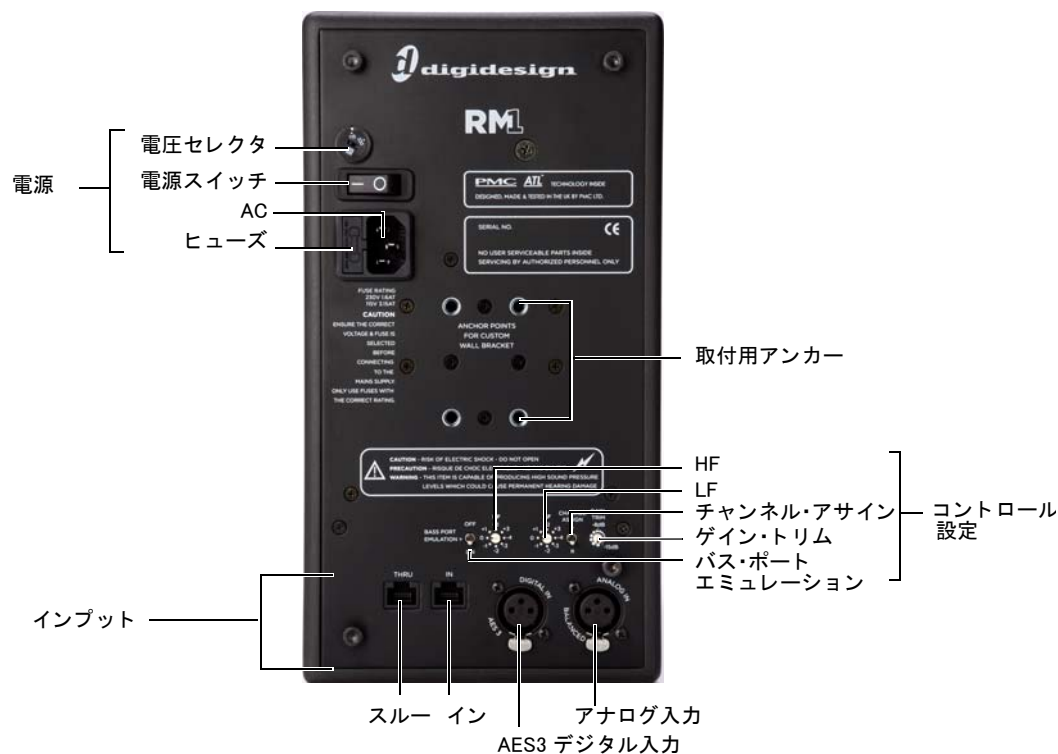



図 1RM1 のバックパネル(RM2 も同様)

電源

電圧セレクタ

スピーカーを電源に接続する前に、使用する電源（100 〜 150V または 230V）に電圧スイッチを必ず合わせてください。

電圧セレクタ

⚠ *電圧の設定を変更したときは、必ずヒューズを適切なものに交換してください。下記参照。*

ヒューズ

ヒューズは、RMS スピーカーとその他のコンポーネントを過電力、スパイク、その他の異変による損傷から守ります。本体のバックパネルに表記されている定格以外のヒューズは使用しないでください。

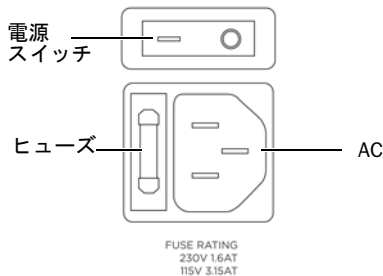
ヒューズと電圧

110 〜 115V と 230V の設定では別のヒューズを使用する必要があります。110 〜 115V の設定では 3.15A のヒューズを、230V の設定では 1.6A のヒューズを使用してください。設定を 230V に変更したら、ヒューズも 1.6A に変えなければばりません。

ヒューズを交換するには：

1 小さなスクリュー・ドライバーを使ってヒューズ・ホルダを取り外します。

2 出荷時に取り付けられていたヒューズを外します。

3 新しいヒューズをヒューズ・ホルダに取り付けます。

電源スイッチ、ヒューズ・カバー、AC コネクタ

電源スイッチと AC コネクタ

AC ポートには、モニターに付属している AC 電源コードを接続します。接続したら、電源スイッチを使って本体のオンとオフを切り替えます。完全に本線から絶縁するときは、電源コードを取り外します。

インプット

アナログ

アナログ・オーディオ・インプットはメスの XLR コネクタです。このインプットは、以下の接続により電子的バランスをとります。

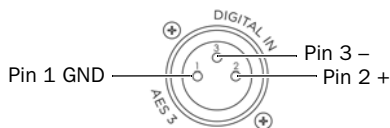
アナログ・イン・コネクタ（XLR）のピン番号

ソース信号がアンバランスのときは、未使用のピンをグラウンドに接続します。最良の結果を得るためには、高品質のケーブルとコネクタを使用してください。

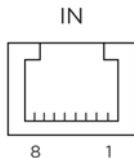
デジタル

RM シリーズのモニターには AES 3 デジタル・インプット（XLR）と THRU と IN のコネクタ（RJ45）があります。

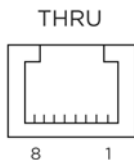
AES 3 デジタル・イン

AES 3 デジタル・オーディオ・インプットはメスの XLR コネクタです。AES 3 インプットはサンプルレート 44.1 kHz、48 kHz、88.2 kHz、96 kHz に対応します。

デジタル AES イン・コネクタ（XLR）のピン番号

IN

このメスの RJ45 ソケットは、RJ45 機器または RM シリーズの他のモニターの THRU コネクタからの AES デジタル・オーディオを接続するためのものです。

デジタル・イン・コネクタ（RJ45）のピン配置

THRU

このメスの RJ45 ソケットは、[IN]（RJ45）または [IN]（AES 3 XLR）デジタル入力からの AES デジタル・オーディオをそのまま出力します。

デジタル・スルー・コネクタ（RJ45）のピン配置

コントロールと設定

Digidesign の各 RMS スピーカーのバックパネルには以下のコントロールと設定があります。

HF 内蔵の HF（シェルフ・タイプ）EQ を使って高周波レベルを設定します。調整できる範囲は 0.5 dB 単位で –4 dB から +3 dB までです（14 ページの「HF を設定する」参照）。

LF 内蔵の LF（シェルフ・タイプ）EQ を使って低周波レベルを設定します。調整できる範囲は 0.5 dB 単位で –4 dB から +3 dB までです。（14 ページの「LF を設定する」参照。）

チャンネル・アサイン AES デジタル・インプットのどちらのチャンネル（左または右）を再生するかを選択します。（11 ページの「デジタル・インプットを接続する」参照。）

ゲイン・トリム インプットの感度を設定します。（13 ページの「ゲイン・トリムを設定する」参照。）

バス・ポート・エミュレーション

RM スピーカーは、バスレフ方式のスピーカーの周波数レスポンスをエミュレートする機能を持っています。ATL 設計は歪みの少ないより正確なバス・レスポンスを実現していますが、バス・ポート・エミュレーション機能を使うとバスレス方式のスピーカーの音でミックスを聴くことができます。（15 ページの「バス・ポート・エミュレーションを使う」参照。）

壁ブラケット用アンカー

4 つの M6 ねじ込み口は、RM1 と RM2 の専用壁ブラケット（傾斜 / 回転可、別売）用です。詳しくは、Digidesign のウェブサイト（www.digidesign.com）をご覧ください。

フロントパネルの LED

この LED インジケータは RM1 と RM2 の両方のフロントにあり、以下の状態を示します。

フロントパネルの LED の状態

LED	状態
消灯	電源が入っていないか一時的な電源ミュート・モード
青色	電源オン
赤色	アンプがクリップを起こしている – 赤色が表示されたら入力レベルを下げる

第 3 章 ： 設置と運用

この章では、Digidesign のリファレンス・モニター RM1 と RM2 の設置、接続、使用方法について説明します。

モニターの設置と接続を正しく行うことによって、効率よく安全にモニターを運用することができます。

はじめに

モニターのパッケージを開く

箱を空けたら、モニターの両側の一番下まで手を伸ばして箱から取り出してください。こうすることによって、モニター前面の HF ドライバや LF ドライバを指でへこましたり穴をあけたりせずに、また背面のスイッチ、コネクタ、その他のコントロールを傷つけずに済みます。

再利用とリサイクル

パッケージは再利用するときのためにとっておいてください。このボール箱には耐久性があり、ラウドスピーカーを輸送する必要があるときに再利用できます。

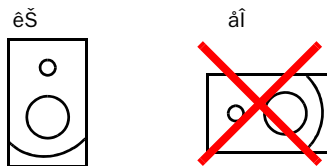
スピーカーを設置する

リファレンス・モニターは、いつものミキシング・ポジションでバランスのとれた正確なサウンドが得られる場所に設置しなければなりません。正しい位置は、スピーカーを使用する場所の大きさや音響によって異なります。設置する場所を問わず、以下のガイドラインを守ってください。

- 耳からの高さが同じになるようにスピーカーを設置してください。
- スピーカーは良質のスタンドに取り付けるか、適切なブラケットを使って壁に取り付けてください。
- 天井に取り付けたりモニターを覆ったりしないでください。モニターの背面には通気が必要です。

スピーカーの周りの気流を制限しないでください。

配置のガイドライン

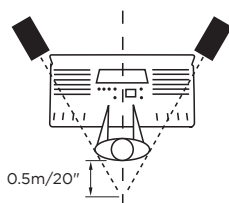
必ず正しい向きに立ててください。モニターを横向きには置かないでください。

正しい向き（左）と間違った向き（右）

縦に置くことによって、周波数レスポンスと音像が安定する最大のリスニング・ウィンドウが得られます。縦向きは、クロスオーバー・ポイント周辺のドライバの相互作用を最小限にします。

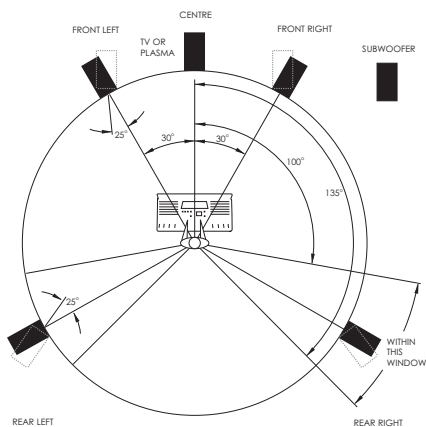
配置

モニターは、聴く位置に対して必ず対象になるよう配置してください。

ステレオ

以下の図にステレオ・モニタリング用の設置例を示します。

ステレオ配置

サラウンド配置

以下の図に 5.0 サラウンド用の設置例を示します。

5.0 サラウンド用 RMS スピーカーの配置（サブは参考まで）

RM シリーズのモニターには、調整可能なゲインおよび低周波レスポンスと高周波レスポンスのコントロールがあります。これらによって、リスニング環境に応じた RM スピーカーの最適なレスポンスが得られます。

AC 電源の設定と接続

以下の説明に従ってヒューズと電圧を正しく設定してください。

 PMC のスピーカーは、使用する地域に合わせて手動で電圧を設定する必要があります。モニターを接続して電源を入れる前に、以下のとおり必ず電圧とヒューズをチェックしてください。

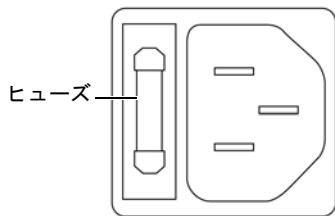
電圧を設定する

・ 両方のモニターの電圧セレクタの設定が、使用する本線の電圧（110 ～ 115V または 230V）と一致していることを確認してください。

電圧セレクタ

正しいヒューズを取り付ける

・ 使用する電圧に合ったヒューズが取り付けられていることを確認してください。

本体のバックパネルに表記されている定格以外のヒューズは使用しないでください。

電源スイッチ、ヒューズ・カバー、AC コネクタ

AC 電源を接続する

モニターに電源を接続するには：

1 この先に進む前に電圧セレクタの設定と正しいヒューズの取り付けが行われていることを確認してください。（詳しくは、10 ページの「電圧を設定する」をお読みください。）

2 付属の AC 電源コード（箱ごとに 1 本）を各モニターのバックパネルにある AC コネクタに接続します。

3 もう一方を電源に接続します。

オーディオを接続する

以下に、RM1 モニターと RM2 モニターへのアナログ・オーディオとデジタル・オーディオの接続方法を説明します。

アナログ・インプットを接続する

アナログ・ソースを接続するには：

1 バランス型 XLR ケーブルをモニターのバックパネルの [Analog In] コネクタに接続します。

アンバランス型アナログ・ソースの接続については、6 ページの「アナログ」をお読みください。

2 ケーブルのもう一方をアナログ・オーディオ・ソースに接続します（例えば、Digidesign の 192 I/O オーディオ・インターフェースのアナログ・アウトプット）。

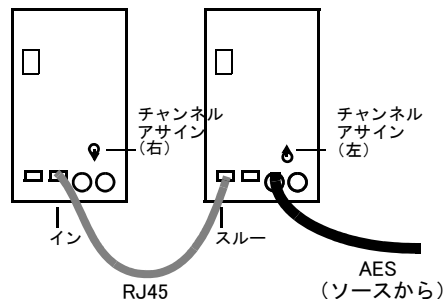
3 手順 1 と 2 を繰り返して、もう 1 つの RM モニターを接続します。

デジタル・インプットを接続する

Digidesign の RMS モニターには、[AES 3 Digital In]（XLR コネクタ）ポートと [IN]（RJ45）ポートから AES を入力できます。RMS モニターはデジタル・ソースに同期します。

デジタル・スルーについて

デジタル・プロトコル AES 3 と RJ45 は、2 チャンネル（左と右）のオーディオを伝送します。デジタル・ソースを使用するときは、そのソース機器は 1 つの RMS モニターのデジタル・インプットに接続します。2 つのモニターのどちらに接続しても構いません。

次に、付属の RJ45 ケーブルを使って、このモニターの [THRU] ポートをもう 1 つの「スレーブ」モニターの [IN] ポートに接続してデジタル・オーディオを送ります。

デジタル入力用のインとスルーの接続（AES ソースの場合）

次にチャンネル・アサイン・スイッチを使って AES 信号の右チャンネルと左チャンネルをスピーカーに割り当てます。

チャンネル・アサイン・スイッチ

デジタル入力を使用するときは、それぞれのモニターが左右のどちらのチャンネルを再生するかをモニター背面のチャンネル・アサイン・スイッチで設定する必要があります。

デジタル・ソースを接続するには：

1 AES ケーブル（XLR）を 1 つのモニターのバックパネルの [AES 3 Digital In] ポートに接続します。これがマスター・モニターになります。

2 付属の RJ45 ケーブルの一方をマスター・モニターの [THRU] ポートに接続します。

3 RJ45 ケーブルのもう一方をもう 1 つのモニターの [IN] ポートに接続します。

4 モニターのバックパネルのチャンネル・アサイン・スイッチを各モニターの位置に合わせて L（左）または R（右）に設定します。

CHANNEL
ASSIGN
L
R

チャンネル・アサイン・スイッチ

アナログ・オーディオとデジタル・オーディオを同時に接続する

複数の入力を同時に接続しておくことはできますが、デジタル入力がアナログ入力に優先します。有効なデジタル入力が検知されれば、アナログ入力はミュートされます。デジタル入力形式の両方または 3 つすべて（アナログおよびデジタルの XLR と RJ45）を使用するときは、以下のルールが適用されます。

デジタル入力モード

有効なデジタル・ソース信号が AES の [IN] ポートまたは RJ45 の [IN] ポートで検知されると、デジタル入力が選択されます。バランス型のアナログの [IN] はミュートされます。AES と RJ45 の両方が接続され、共に有効なデジタル信号を受信したときは、AES への入力が優先されます。RJ45 の [THRU] ポートは、すべてのデジタル入力モードでデータを通過させます。

RJ45 から有効な AES3 入力に切り替えるには：

1 モニターの電源を切ります。完全にシャットダウンするまで 10 秒待ちます。

2 もう一度スピーカーの電源を入れます。

アナログ入力モード

AES または RJ45 に有効なデジタル信号がないときは、バランス型のアナログの [IN] が有効になります。アナログ入力モードでは、デジタル入力やスルーは起きません。

電源のオンとオフ

モニター・システムの電源は、常に最後に（ミキサー、レコーダー、その他の機器に完全に電源が入ってから）入れてください。

逆に電源を切るときは、スタジオの他の機器の電源を切る前にモニター・システムの電源を最初に切ってください。

使い始めと「ならし」期間

耐用性の高い部品を持つ多くの機器では、その最大の能力を発揮できるようになるまでに少し時間がかかります。LF ドライブ・ユニットや HF ドライブ・ユニットに柔らかいコーンを持つ RMS スピーカーの場合は特にそうです。

この素材は運用を続けているうちに柔軟性を増し、オーディオ・スペクトルの微妙な違いに対してより敏感に反応するようになります。低音の深さやダイナミクスも音像の明瞭さと共に向上します。試運転 / ならし期間は、通常の使用において 14 時間程度です。

モニターの設定を行う

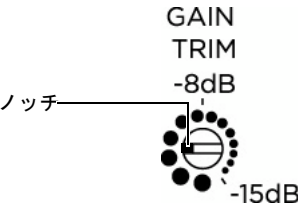
ゲイン・トリムを設定する

ゲイン・トリムは、ソースへの RM1 モニターと RM2 モニターの入力感度を合わせる 16 ポジションのロータリー・エンコーダです。

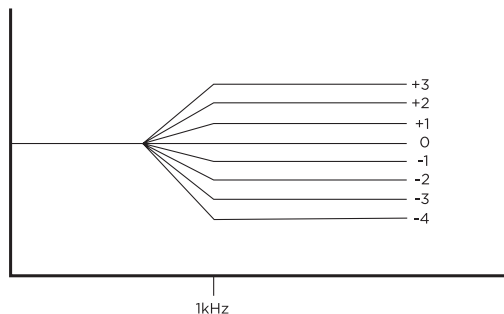
ポインタを一番下（6 時の位置）に向けると感度が最大になります。この位置から時計回りに回すと 1 dB 単位で –15 dB まで感度が下がります。

ゲイン・トリムの設定と入力レベルの例

通常のゲイン設定	フルスケール出力用入力レベル
0 dB	4 dBu
ミ 8 dB	12 dBu
ミ 15 dB	19 dBu

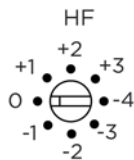
ゲイン・トリムのエンコーダには設定を示すノッチ（切り込み）があります。

ゲイン・トリム・コントロール（コントロールにノッチがある）

HF を設定する

HF レベルを調整すると、ソース機器や部屋の音響によって生み出される高周波の変動を打ち消すことができます。

HF の傾斜（RM1 と RM2）

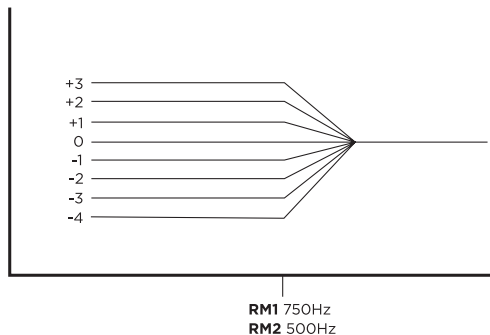
調整できる範囲は 0.5 dB 単位で −4 dB から +3 dB までです。

HF を調整するには：

・ HF のエンコーダを回して必要な設定に合わせます。

HF コントロールと表記（現在の設定は 0）

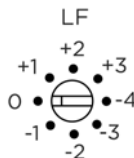
HF の設定について詳しくは、20 ページの「参考図表」をお読みください。

LF を設定する

LF を調整すると境界の影響を補正できます。モニターを壁、天井、床の近くに置くと、低周波エネルギーをより多く感じる場合があります。こうした場合は、各モニターからの LF レベルを下げる必要があります。大きな部屋や自由な空間では、LF レベルを上げることができます。調整する値は、部屋の音響や個人的な好みによって異なります。

LF の傾斜

調整できる範囲は 0.5 dB 単位で −4 dB から +3 dB までです。

LF を調整するには：

・ LF のエンコーダを回して必要な設定に合わせます。

LF コントロールと表記

LF の設定について詳しくは、20 ページの「参考図表」をお読みください。

バス・ポート・エミュレーションを使う

バス・ポート・エミュレーションをオンにすると、バスレフ方式のラウドスピーカーをエミュレートします。

バス・ポート・エミュレーションをオン（オフ）にするには：

・ バックパネルのバス・ポート・エミュレーションのスイッチをオン（オフ）にします。

バス・ポート・エミュレーションのスイッチ

バス・ポート・エミュレーションについて詳しくは、20 ページの「参考図表」をお読みください。

最大の性能を引き出すために

ＲＭシリーズは、取り扱いに気をつける限り故障しないように製造されています。以下の点に注意してください。

・ 長期間にわたって酷使したり、このガイドで示した注意を守らないと故障する場合があります。

・ 歪みが起きたら、すぐに入力レベルを下げてください。

・ HF ドライバと LF ドライバはどちらも繊細ですから手で触れないでください。損傷を受けたドライブは性能に悪影響を与えます。

・ プラグの抜き差しやソース機器の交換は、必ず本体の電源を切ってから行ってください。

・ 問題が起きた場合は Digidesign の販売店に相談してください。販売店が問題解決のお手伝いをします。

トラブルシューティング

トラブルシューティングを行う前に、このガイドの表紙に記載されている注意を必ずお読みください。

本体前面にある LED は、以下の状態を示しています。

フロントパネルの LED

LED	状態
消灯	電源が入っていないか一時的な電源ミュート・モード
青色	電源オン
赤色	アンプがクリップを起こしている－赤色が表示されたら入力レベルを下げる

LED が青色で音が鳴らないときは、以下を確認してください。

・ 本体がアナログ信号または有効な AES3 デジタル信号を受信しているか確認してください。

または

・ 背面の金属板の温度を確認してください。もし熱くなっていれば、本体の電源を少なくとも 5 分間切って冷ましてください。冷めたら、本体の電源を入れて動作を確認してください。（16 ページの「温度と熱について」参照）

LED が消えていて音が鳴らない場合は：

・ ヒューズと電源の接続を確認してください。ヒューズを交換し、電源の接続にも問題がないのに LED が点灯しないときは、Digidesign のカスタマー・サポートにご連絡ください。

温度と熱について

一般的な設計のモニターと異なって、RMS スピーカーは非常に効率のよいパワーアンプを使っているため、ほんの少しの電力しか熱に変換されません。しかし本体が風通しの悪い環境に設置されていると、サーマル・シャットダウン機能が起動する場合があります。この機能が起動したときは、本体の設置場所を変えてください。

問題がないはずの場所でサーマル・シャットダウン機能が起動した場合は、Digidesign のカスタマー・サポートにご連絡ください。（連絡先はこのガイドの裏表紙に記載されています。）

付録 A

仕様

RM1 と RM2 のオーディオの仕様

RM1 と RM2 の技術仕様

仕様	RM1	RM2
周波数レスポンス	50 Hz 〜 25 kHz	40 Hz 〜 25 kHz
ピーク SPL @ 1m	111 dB	113 dB
実効線路長	1.5m (4.9 ft.)	1.5m (4.9 ft.)
ドライブ・ユニット	LF 140mm ドープ・コーン、合金シャーシ HF 27mm ソフト・ドーム、強磁性流体冷却	LF 170mm ドープ・コーン、合金シャーシ HF 27mm ソフト・ドーム、強磁性流体冷却
クロスオーバー周波数	3 kHz	3 kHz
HF 調整	0.5 dB 単位で −4 〜 +3 dB、コーナー周波数 1 kHz	
LF 調整	0.5 dB 単位で −4 〜 +3 dB、コーナー周波数 750 Hz	0.5 dB 単位で −4 〜 +3 dB、コーナー周波数 500 Hz
入力コネクタ		
アナログ	XLR メス　ピン 1 GND、ピン 2 +、ピン 3 D	
デジタル	XLR メス　ピン 1 GND、ピン 2 +、ピン 3 D	
入力インピーダンス	22K オーム	22K オーム
感度		
フルスケール出力用入力レベル	+4 dBu 〜 +19 dBu まで調整可	
ゲイン・トリム	1 dB 単位で 0 dB 〜 −15 dB	

RM1 と RM2 の技術仕様

仕様	RM1	RM2
寸法	H: 290mm (11.42 inches) W: 155mm (6.10 inches) D: 300mm (11.81 inches)	H: 400mm (15.75 inches) W: 194mm (7.64 inches) D: 370mm (14.57 inches)
重量	1 台 6.4 kg (14 lbs)	1 台 9 kg (20 lbs)
仕上げ	ダーク・グレー　-RAL 9004	

A/D 変換

RM1 と RM2 の A/D 変換の仕様

項目	記号	仕様	単位	備考
最大入力レベル	Vin	20.9	dBu	
S/N 比	SNR	111 109	dB dB	"A" 加重 20 kHz 非加重
歪み + ノイズの合計		-95	dB	20 Hz 〜 20 kHz、 -1 dBFS、 MBW=20 kHz
周波数レスポンス	BW	DC-40	kHz	

D/A 変換

RM1 と RM2 の D/A 変換（パワーアンプへの出力）

項目	記号	仕様	単位	備考
出力電圧	Vout	6.37	VRMS	
S/N 比	SNR	110 108	dB dB	"A" 加重 20 kHz 非加重
歪み + ノイズの合計		-95	dB	20 Hz 〜 20 kHz、 -1 dBFS、 MBW=20 kHz
周波数レスポンス	BW	DC-40	kHz	

パワーアンプの SNR は 125dB を超えシステムのノイズには関係しない。

パワーアンプの仕様

項目	記号	仕様	単位	条件と備考
出力電力	PR	RM1: LF 80W、HF 40W RM2: LF 100W、HF 50W	W	1% THD　1 または 2 チャンネルはトランス依存
歪み + ノイズ	THD+N	0.05	%	最大、PR/2 まで
		0.005		通常、5W　周波数に依存しない
信号 / ノイズ	SNR	125	dB	最小、リファレンス 100W/8 3/4。
		105		最小、リファレンス 1W
周波数レスポンス	BW	DC–50k	Hz	+0, D3 dB
出力インピーダンス	ZO	0.02	W	通常、1 kHz
		0.1		通常、20 kHz
最大出力電流	IOMAX	9	A	Min.
効率	h	>92	%	フルパワー
アイドル損失	P0	4	W	

条件：Zload = 8 3/4、計測帯域幅 = 20 kHz AES17

参考図表

RM1 図表

RM1 バス・ポート・エミュレーション

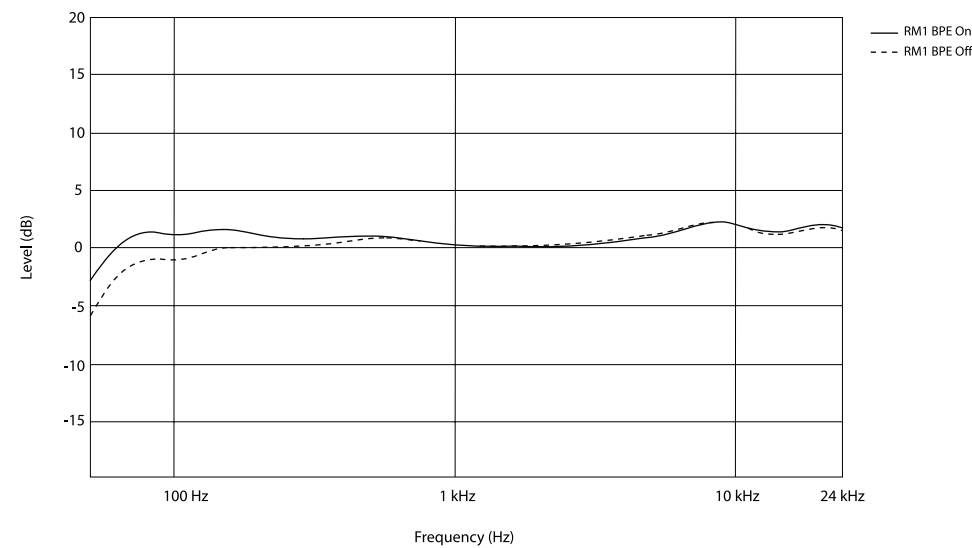



図 2RM1 バス・ポート・エミュレーション　レベル

RM1 LF レベル

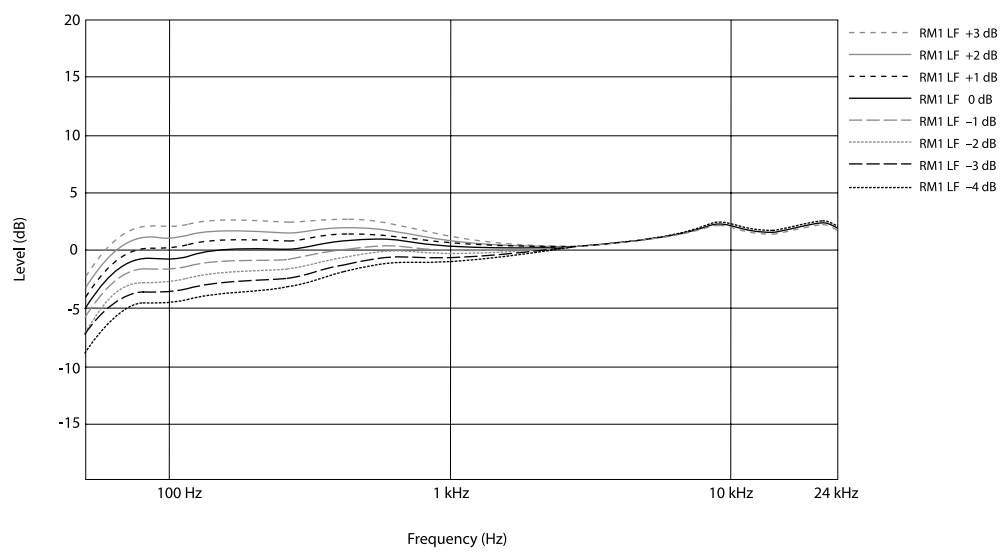



図 3RM1 LF の設定とレベル

RM1 HF レベル

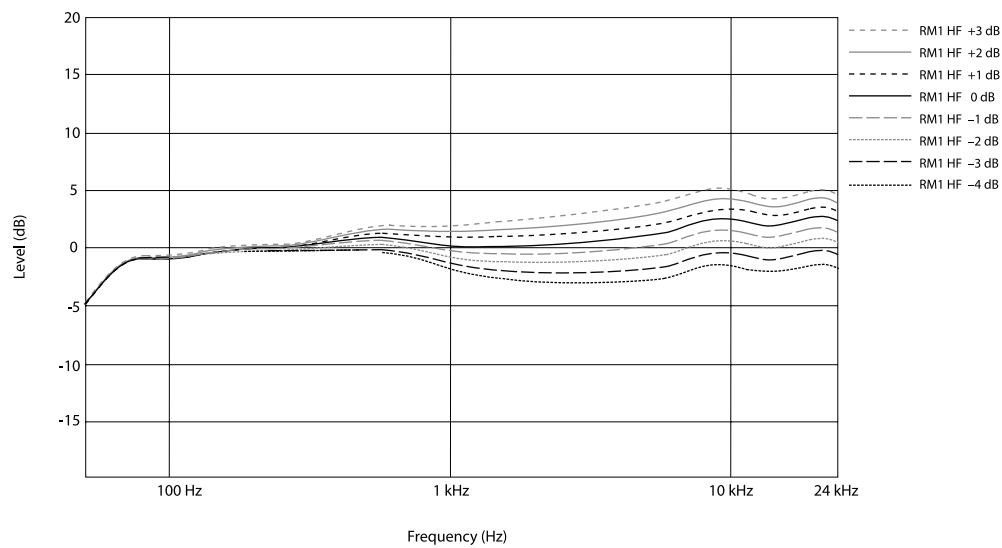



図 4RM1 HF の設定とレベル

RM2 図表

RM2 バス・ポート・エミュレーション

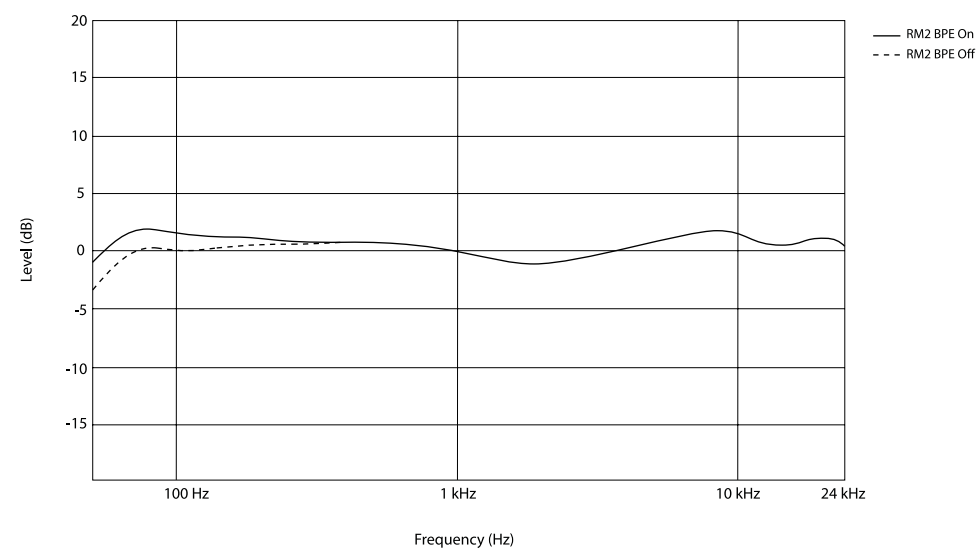



図 5RM2 バス・ポート・エミュレーション　レベル

RM2 LF レベル

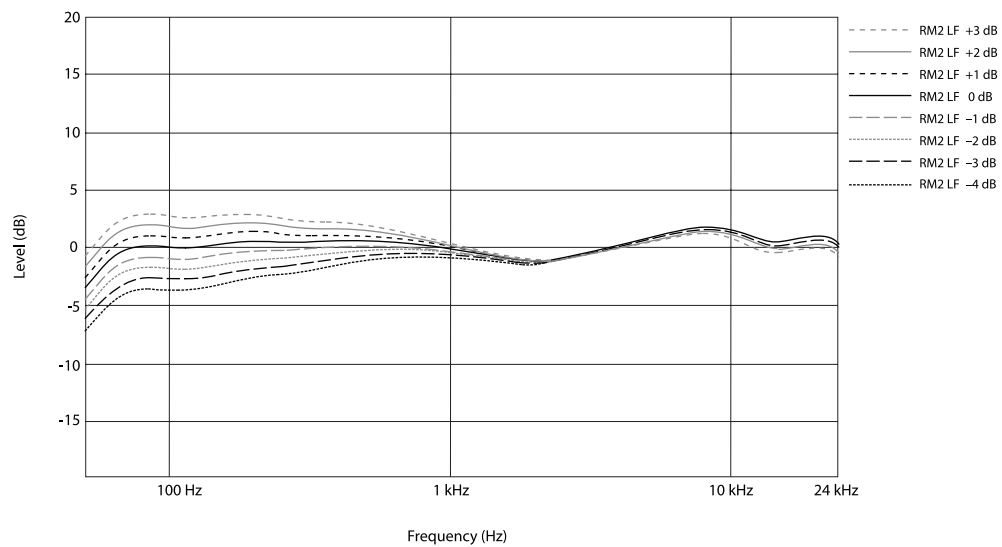



図 6RM2 LF の設定とレベル

RM2 HF レベル

図 7RM2 HF の設定とレベル